

令和4年度 長野県田川高等学校 学校評価表

74田川高等学校

建学の精神 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日)	
校 是 誠 実 意 欲 創 造	
教 育 目 標	重点目標
1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。	1. 学力の充実に従い、日々基礎・基本を重視して思考・判断・創造力を育み、生徒の希望する進路実現を目指す
2. 身心を錬磨し、不屈の精神を養う。	2. 生徒一人ひとりが意欲を持って諸活動に取り組み、達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。
3. 勉学に励み、品性を陶冶する。	3. PTA(保護者)・地域(同窓会)・教員との三者の連携、協働により生徒を育み、開かれた学校づくりを目指す。
	4. すべての生徒と職員が誠実な心を持って規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安心安全な学校を創造する。

評価項目	評価の観点	評価(%)※				現状・経過	成果・課題	改善策・向上策
		A	B	C	D			
学習の充実と 進路実現 (重点目標 1)	教育課程・シラバスに沿って、基礎基本の定着を図る授業展開ができたか。	30% ↗	70% ↗	0% ↘	0% =	コロナ感染による生徒登校禁止期間があったが、オンラインによる授業を行い、概ね計画通り学習活動を実施することができた。職員ICT研修を複数回を行い、オンライン授業、円滑化に繋がった。	各学年とも基礎力の充実に力を入れた授業、補習などを実施した。また、生徒の状況に合せ授業に工夫をこらすことができた。	実態に合わせたシラバスの改善を行っているが、学び直しも含め、学力を勘案しながら授業内容の工夫が必要。基礎基本の定着は授業に加え、家庭学習の習慣化も必要。現状を把握し、早い時期から個別の指導も行う必要がある。
	生徒に学ぶ理由を考えさせ、ICT機器等の活用などにより、意欲を喚起し、学習習慣を身につける指導を行うことができたか。	20% ↗	60% ↗	20% ↘	0% =	3学年では、進路実現に向けた努力する生徒が多く見受けられた。継続して田川タイム(朝学習)を行うことにより、基礎力の向上と学ぶ姿勢を養ってきた。	電子黒板が設置が進み、机環境が整い、活用する教員も多い。生徒のタブレット有効利用を研究していく必要がある。定期考査では力を発揮できるが、模試では発揮できない生徒が多いので、学力の定着と応用力をつけるのが課題である。	全員がタブレットを持つようになったので、様々なアプリの活用を積極的にを行い、利用頻度を高める努力をしたい。来年度から田川タイムの時間をなくすため、基礎学力定着の取り組みの検討が必要である。
	進路実現のための適切な情報提供と、個々の生徒の希望に添った進路指導ができたか。	30% ↗	60% ↘	10% ↘	0% =	時宜に応じて進路情報を提供した。積極的に上級学校からの情報提供を依頼した。就職指導においてもベーパーなど進路を密にし、企業から得られた情報とともに提供してきた。担任・係による個人面談等を通じ、個々に具体的な指導を行った。	卒業生は、進学・就職とも概ね希望する進路実現ができた。一方で意識が低く、さらには「決められない」生徒もいた。	さらに高大連携を推進し、情報の共有を図り、進路指導に生かす。上級学校見学、企業見学・体験を積極的に進め、また、生徒自ら主体的に進路情報を得ていく指導を行う。
	キャリア教育を推進し、生徒が希望進路を実現できるように、進路意識の向上を図ることができたか。	20% ↗	70% ↘	10% ↘	0% =	進路ガイダンスや講話などを実施。また、進路説明会参加、オープンキャンパス参加や模擬講義受講など、進路実現に向けての意識喚起に努めた。就職指導でも企業見学の実施、企業がダンスへの参加などに取り組み、進路意識の高揚に努めた。	進路意識を高く持ち、日々学習活動などに励んでいる生徒が増加している。しかしながら、主体的に自己の課題として取り組みを大きくする生徒がいない。	進路実現が自己の課題であることを早期に理解させ、主体的に、職業・学問研究を行い、視野を広げる指導をする。また、進路希望調査を改善し、統計的調査だけではなく生徒の進路意識の高揚、「保護者の考えの掌握と意識喚起」の3つの側面を意識して実施する。
自主活動の 活性化 (重点目標 2)	蒼穹祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにしたか。	10% ↘	80% ↗	0% ↘	0% ↘	コロナ禍であったが、蒼穹祭では、地域連携や文化祭実行委員による企画を行うことができた。計画通りとまではいかなかったが、リモート開催で実現し、充実した活動ができた。また、体育祭やクラスマッチも制約があったものの、行いことができ、生徒の笑顔がみられた。	リモート形式を併用しながら行い、安全に運営することができた。蒼穹祭の文化部の発表では、来場型とリモートを併用し、多くの保護者に見てもらえる機会をつくることができた。	蒼穹祭は、まだまだ、解決困難な問題が山積している。新型コロナウイルスの取り扱いの変更が文化祭の動向を大きく左右する。注視し、早期対策の健闘が必要である。
	生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。	10% ↘	60% ↗	20% ↗	0% ↘	新型コロナウイルスの影響により、計画通りの活動は行えない部分もあった。その中でもできることは何かを考え、計画し、行事を運営することができた。クラブ活動でもボランティアや様々なことがあり、活動がはかどる中だった。また、子ども会やボランティアなど地域との関わりを保つため、地域交流に努めた。	生徒会行事・学校行事を中心にPC等の情報機器を使い、リモート開催や資料作成など行うことができた。本年度はボランティアへの参加がほとんどできなかったため、来年度は、ボランティアを含め地域交流に努めたい。	生徒会の生徒を含めた生徒が様々な経験ができるよう塩尻市や松本市にある様々な団体・企業との関わりを深めたい。校内だけでなく、地域や長野県中での必要とされる生徒会活動の場を考へる場を推進し、生徒会活動の新たな取り組みを後押ししていきたい。
	清掃活動にきちんと取り組むよう指導できたか。	40% ↗	60% ↗	0% ↘	0% =	コロナ禍のため、整美委員会・他の委員会の活動が制限されたため、難しい面があった。しかし、生徒会を中心に校内・学校周辺の清掃を行うことができた。	大掃除を複数回設け校内美化に努めた。外掃除はほとんどできなかった。長期休業前の大掃除では、クラスへの呼びかけを行い、清掃活動の充実を図った。	大掃除は2ヶ月に一度、設定し、重点箇所を具体的に提案し、主体的な清掃活動を行う。清掃分担当場所の精査をする(毎日やる必要のない場所を決めることも必要と思われる)。ゴミ分別の徹底、ゴミ袋の減減に努めたい。
開かれた 学校づくり (重点目標 3)	PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。	10% ↘	60% ↗	30% ↘	0% =	コロナの影響があったが、従来の活動を多く復活することができた。総会、蒼穹祭でのPTA発表と進路ガイダンスの影響で、第3回総会は大層のために中止したが、新地区制のもとでの3年ぶりの地区PTA懇談会や40周年記念行事と合同した秋の講演会、美化など計画通り実施することができた。	役員層の若さには積極的に活動していた。個々の活動の予定を定めて全員に周知することにより、例年より参加率を向上させることができた。しかし、全体としてはPTA活動に対する関心、関わりは年々低迷してきており、PTAのあり方や活動の抜本的な見直しも必要である。	役員決めの難航や生徒数減少の状況のもとで、活動内容の見直し、意義や魅力の再確認が必要とされている。参加増加の工夫を進める。地区PTAは、役員や教員の負担、参加者の低迷を考慮し、来年度からは取りやめたい。引き続き早期の連絡周知と繰り返しの呼びかけを徹底する。
	webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。	20% ↘	60% ↗	10% ↗	0% ↘	コロナ禍であったが、計画通り7月と10月に中学生体験入学を開催。内容や時期は概ね好評。Webページは、支援員の協力を得て大幅にリニューアルするとともに、見やすさ、迅速に情報を伝えられる。「蒼穹通信」も学校生活がリアルに伝わるよう、写真中心に編集、発行された。	中学生体験入学では、授業及びクラブ体験など好評であったが、より多くの魅力が伝わる内容に工夫する。同時に高校での学びについてもきちんと伝える必要がある。YouTubeでできたWebページは、本校らしい写真を増やし、より見栄えがするものにグレードアップした。	再編計画が中学生の志望動向に影響を及ぼすことと懸念され、中間協議会・私立高校と差別化を図るための魅力や今後のビジョンとこれらを発信する方法を模索する必要がある。体験入学以外の公開授業、授業やクラブ活動の成果の校外での発表の機会を検討していきたい。
規範意識と 自他を敬愛 する心 (重点目標 4)	遅刻指導など、基本的な生活習慣を構築させる指導ができたか。	10% ↗	50% ↗	30% ↘	10% ↗	朝SHRが1時間目より前に実施されていることから遅刻者の把握が容易となったため、今年度から「遅刻ゼロ週間」は設けず、昇降口でのチェックも実施しなかった。	遅刻をする者は、ほぼ固定化されているように思われる。日々の継続した指導を地道に行っていく他に方策は見当たらない。	基本的な生活習慣の確立には、家庭との協力関係が欠かせないため、生徒の現状を定期的に知らせる必要がある。健康観察のため、朝SHRと1時間目を入れ替えて2年経つが、遅刻との相関関係について検証し、変更する必要があるかどうか、検討が必要と思われる。
	交通安全・頭髮指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。	10% ↗	50% ↗	40% ↘	0% ↘	頭髮指導は昨年度と同様、「年間を通しての指導」とし、年間6回の一斉検査日を設けなかった。交通安全について、登下校時のマナーに関する苦情は、自転車だけでなく歩行者についても寄せられた。	頭髮指導については、指導に従う生徒が多かったが、一部、年間を通して改善されない生徒が見られた。昨年に比べ、自転車の事故が増加した。警察に届け出ないケースもみられた。	交通安全については、家庭の理解と協力が不可欠である。また、具体的な指導方法を検討している。交通安全について、職員による立ち番を例年春に実施しているものに加えて、秋にもPTAの協力をいただき実施した。
	生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。	40% ↗	50% ↘	10% ↘	0% =	問題行動の件数は昨年度より微減となった。当事者に暴力の認識を促し、行動も見られたものの、全体的にはいじめ・暴力のない学校づくりができていると思われる。	反省指導の人数は減少したものの、SNSトラブル・いじめにつながる事象は多くなり、生徒の人権意識に関する啓発活動はよりいっそう重要かつ必要であると思われる。	「生徒によるスモークに関するルール」が定められたが、経緯を知らない生徒に対して、他分掌・委員会を協力し、より実効性のあるものにしていく。同時に、日常的に人として関わり合う人間関係について投げかけていく。
	生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。	20% ↘	70% ↘	0% =	0% =	コミュニケーションに苦手意識が強い生徒が増えた。コロナ禍での出欠率基準の変化は友人関係を築く機会を減らし、登校しづくなる要因となった。生徒の心に耳を傾け、手を差し伸べられない状況に、もどかしさを感じた。係会では学年、保健室の情報を共有し、配慮を要する生徒を把握した。	SCやSSWに繋がり、地域の支援担当者、医療機関と支援会議を開き、常任委員と連携を図り、助言を得て、個々の生徒に適した支援を模索し、山積する課題に苦痛を感じている生徒もいる。今後、学習面での支援体制も整える必要があるかもしれない。	担任、教科担当、クラブ顧問、保健室など、で連携し、情報を迅速に共有し、必要に応じて外部機関と連携し、適切な対応を迅速に生徒に寄り添った対応を協議、実施する。校内研修を通して教職員の専門的知識習得、相談スキル向上を図り、より一層のチーム支援体制を強化する。

【達成度】 A: ほぼ目標を達成した B: どちらかといえば目標を達成した C: どちらかといえば達成できなかった D: 達成できなかった
矢印 ↗ ↘ は、昨年度の中間評価との比較

※ 評価は全職員による